

倉敷中央病院 創立100周年

脳卒中 院内外の多職種と研究会

脳卒中などの高度な治療に備えてマンパワーを確保しておくため、病状が比較的軽かったり症状が安定したりすると、地域の医療機関に転院してもらう取り組みを徹底している。

鍵を握るのは医師を含めた病院間のスタッフの連携だ。転院後も個々の患者に合わせてリハビリを行ってもらうよう、治療方針などを毎日話し合う院内カンファレンスに、倉敷市内2病院の医師が週に1回ずつ参加している。

他院の看護師や医療ソーシャルワーカーも来院し、病状や家族構成、必要な介護支援などを事前に把握している。きめ細かい情報共有により患者が安心して転院できる上、早くからの準備が奏功し、倉敷中央病院の脳卒中患者の平均在院日数は全国平均より10日ほど短いという。

院内外の多職種に呼びかけ、倉敷脳卒中チーム研究会「K-CAST」を約15年前に結成。医師、看護師、薬剤師らが集い、定期的に勉強会を開いている。沈正樹・脳神経外科・脳卒中科主任部長は「『K-CAST』を軸に病院の垣根を越えた顔の見える関係づくりを進め、急性期治療から在宅療養まで患者を支えていきたい」と話す。(二羽俊次)



顕微鏡やモニターを駆使し、繊細で高度な手術を行う脳神経外科・脳卒中科のスタッフ

整形外科関連疾患 機能分担し「即日転院」も

整形外科では、他院でも治療できる疾患と判断した場合、地域の医療機関に治療を依頼する「即日転院」を2020年度から行っている。倉敷中央病院の年間救急搬送が約1万件に及ぶ中、病院間の機能分担を進めるのが目的。単純な骨折や打撲、腰痛などが対象で、22年度は74件を救えた。

即日転院を行うには、高度な画像診断機器を備え、さらにはその画像を読み取る能力のあるスタッフが求められる。患者が気付かない内科の重篤な疾患や脳卒中などが隠れているケースがあるためだ。院内の他の診療科と連携しながら適切な診断を行い、別の医療機関に情報を引き継いでいる。

伊藤宣主任部長は連携先である倉敷市内3病院を毎週訪問。人工関節と人工股関節の手術をして転院した患者のリハビリについて担当の医師や患者に助言をしている。

「関節や骨の機能は生活の質(QOL)を左右する。いつまでも快適に過ごしてもらえよう、予防医療にもさらに力を入れる」と伊藤主任部長。その思いで、他院の医師を迎えて勉強会を開いたり、骨粗しょう症の患者に対する服薬の徹底を地域の医療機関に呼びかけたりしている。(二羽俊次)



整形外科では他院の医師を対象に手術リハビリの勉強会を開いている

地域医療エコシステム

倉敷中央病院が進める「地域医療エコシステム」は疾患別に具体的な取り組みが進みつつある。脳神経外科・脳卒中科、整形外科、外科、小児科のケースを紹介する。

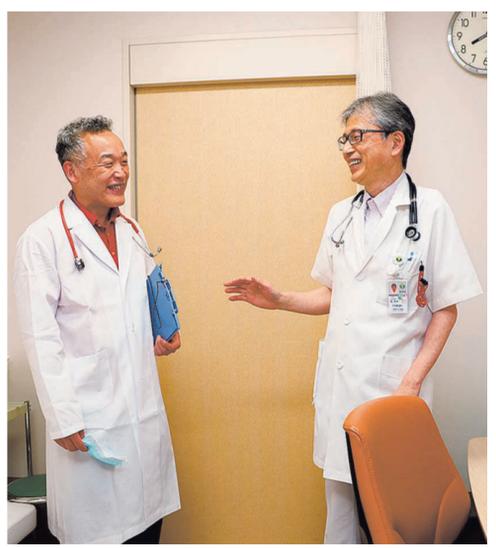
小児科関連疾患 他院の特長生かす体制へ

小児科は、地域全体で小児医療を支えるシステム構築に向け、川崎医科大学大付属病院など倉敷市内で小児の入院治療に当たっている5病院とともに連携会議を開いている。きっかけとなったのは、新型コロナウイルス禍の真っただ中、乳幼児を中心に発生した呼吸不全などを引き起こすRSウイルスの流行だった。

同科は、先天性の心疾患や血液がんなど幅広い専門分野をカバーし、小児科急症にも対応。重篤な患者を多数受け入れている。このため2021年夏のRSウイルス流行の際、感染患者の新規受け入れが難しい場合があり「他院との協力の必要性を強く感じた」と、脇研自・小児科主任部長は振り返る。

21年9月から始まった連携会議では、各病院の診療状況などについて情報共有し、重症度に応じた治療の役割分担の在り方を模索。脇研主任部長は「各病院の特長を生かし、小児総合病院のような体制を築けないか検討している」と言う。

20年ほど前からは、近隣の小児科クリニックの開業医が倉敷中央病院救命救急センターでの小児夜間診療に参画し、連携関係を深めている。現在、6人の開業医が診療を受け持っている。(河本春男)



夜間診療のため倉敷中央病院を訪れ、脇研主任部長(右)と言葉交わす高杉こどもクリニック(総社市)の高杉尚志院長



胃がん手術後の地域連携バスについて、運用や患者の受診状況についてチェックする医師や看護師、地域医療連携室の担当者

「パス」で術後の情報共有

5大がん(肺、大腸、胃、乳房、肝臓)については、地域のかかりつけ医と連携し、手術を受けた患者の経過を見守る「がん診療地域連携パス」を積極的に活用している。2022年度は122症例で発行した。ここ数年は岡山県内の総発行実績の約7割を占めている。

地域連携パスは、治療を提供したがん拠点病院などと患者退院後の診療に当たるかかりつけ医が、術後の治療経過の情報を共有するための手帳や冊子。かかりつけ医と拠点病院がそれぞれの視点で患者を見守り、必要な治療を切れ目なく提供できる。患者は診療の全体像が把握でき、積極的な治療参加がしやすい。

河本和幸副院長(外科主任部長)は「何より術後の患者フォローが確実にできる」と言っている。地域医療連携室の担当者が医師や看護師らと連絡を取りながら、定期的にパスを導入した患者の状況をチェック。予約日に来院せず、半年以上経過している場合はかかりつけ医と連絡を取って予約を入れてもらうという。

河本副院長は「かかりつけ医との連携を一層深め、がん患者が地域で安心して療養できる環境を構築したい」と話している。(河本春男)

創立100周年 おめでとうございます

<p>医療ガスで臨床現場をサポートします</p> <p>日本エアリキード合同会社</p> <p>TEL: 086-444-6122 https://jp.airliquide.com/</p>	<p>地域の美しい未来に貢献したい。</p> <p>山陽美業(株)</p> <p>優良産業廃棄物処理業者認定</p> <p>【ホームページ】http://www.sanyobigyo.jp</p> <p>【本社】岡山県倉敷市老松町2丁目13番30号 TEL:(086)434-3500(代)</p> <p>【倉敷事業所】岡山県倉敷市湯田276番地 TEL:(086)422-9113</p>	<p>共に地域に根ざして100年</p> <p>ササベ印刷株式会社</p> <p>代表取締役 板倉昌美</p> <p>〒710-0806 倉敷市西阿知町西原一三三一九</p> <p>TEL: 086-466-1111</p> <p>https://www.sasabec.co.jp</p> <p>貴院のますますの発展を、新念申し上げます。</p>	<p>食で支える 笑顔を支える</p> <p>東京都港区赤坂2-23-1 アークヒルズフロントタワー</p> <p>TEL:(03)6234-7500</p> <p>https://www.aimservices.co.jp</p>	<p>毎日を、人と地球に優しく</p> <p>医療廃棄物処理のことなら</p> <p>アウルグループ 株式会社衛生センター</p> <p>代表取締役 八田 高志</p>	<p>水島信用金庫</p> <p>理事長 杉原 正一</p> <p>倉敷市水島西常盤町八二二二</p> <p>TEL:(086)444-1222</p>	<p>株中電工 倉敷支社</p> <p>執行役員支社長 金田 好正</p> <p>倉敷市 中島一三九〇一</p> <p>TEL:(086)466-1622</p> <p>株日立ビルシステム 中国支社</p> <p>支社長 下川 哲也</p> <p>広島市中区八丁堀三三三三</p> <p>TEL:(082)227-1133</p>
--	---	--	--	--	--	---

制服 もったいない!!!

ユニフォームのことなら

都ユニリス

https://unilise.co.jp/

都ユニリス(株)岡山支店

TEL: 086-440-6161

大成建設

TAISEI

For a Lively World

常務執行役員中国支店長 中屋 亮

広島市中区小町2-37 TEL:(082)242-5301

美しい環境への誘い

株式会社 クラビ

代表取締役社長 名古谷 知哉

〒710-0051 倉敷市幸町15-23

TEL:(086)427-7771(代)

http://www.kurabi.co.jp

ホーチキ 防災システム

防災で地域の安全・安心に貢献

有限会社 亀屋防災

代表取締役 野村信一

倉敷市水島南春日町8-32

自動ドアで私たちのまちを 快適にサポートします

株式会社 メレック

〒700-0033 岡山市北区島田本町1-2-25

TEL: 086-255-0055